

専門演習（卒業論文）	2単位	
	3年	春学期
加藤 言人		
<b>担当科目：</b> 政治過程論（春学期、半期集中） 計量政治学（秋学期、英語）		
<b>ゼミナールの研究テーマ：</b> 今の政治について「どうするべきか」を考えるには、今の政治が「なぜ・どのように動いているのか」について検討する必要があります。現状を十分に検討せずに提言・提案を行えば、方向が間違っていたり、実現可能性が低かったりしかねないからです。本ゼミでは、政治の現状について客観的・論理的な理解を深めるために、科学的推論（実験・実証分析）の方法を紹介します。そして、目の前にある問題について直感や思い込みを捨てて検討する力を身につけることを目指します。想定される研究テーマは秋学期のシラバスを参照してください。		
<b>1. 授業の概要・到達目標</b> 科学的思考法を理解し、それに沿った研究を行う経験と知識を身に着けます。具体的には、サーベイ実験の研究手法に注目して、グループに分かれてサーベイ実験研究のレプリケーションに取り組んでもらいます。春学期は、グループで研究の問い合わせを特定して先行研究を探し、実験デザインを考え始めます。また、実証的な分析を行うツールとして、統計ソフトRを用いた分析の行い方を導入します。		
<b>2. 授業内容</b> 第1回目 イントロダクション（自己紹介・課題説明） 第2回目 先行研究の探し方とまとめ方① 第3回目 先行研究の探し方とまとめ方② 第4回目 研究の問い合わせを特定する① 第5回目 研究の問い合わせを特定する② 第6回目 統計ソフトRの導入 第7回目 グループディスカッション（研究デザインについて） 第8回目 Rによるデータの可視化 第9回目 進捗グループプレゼンテーション① 第10回目 進捗グループプレゼンテーション② 第11回目 Rによる回帰分析① 第12回目 Rによる回帰分析② 第13回目 進捗グループプレゼンテーション③ 第14回目 進捗グループプレゼンテーション④ ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
<b>3. 履修上の注意</b> 本ゼミでは研究の実施や分析の実践にフォーカスします。研究の問い合わせ論理の構築については政治過程論で詳しく教えるので、強制ではないですが、春学期に政治過程論を同時受講するのが望ましいです。		
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b> 秋学期シラバスを参照。		
<b>5. 教科書</b> リーディングについては講義中に必要に応じて提示します。		
<b>6. 参考書</b> 秋学期シラバスを参照。		
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b> 授業中のフィードバックに加えて、授業時間外でも、Discordを用いて、教員・学生間で双方向的なコミュニケーションを行います。		
<b>8. 成績評価の方法</b> 研究発表（30%）、ディスカッションの貢献度（20%）、グループワークのクオリティ（50%）を総合的に評価します。		
<b>9. その他</b> 応募学生に対する希望：本ゼミナールの卒業論文は、量的データ分析を用いた仮説検証を含めることを条件とします。具体的な手法・ツールについてはゼミ中に紹介するので事前知識は特に求めませんし、数学が得意である必要もありません。ただし、数字・統計を用いた論理的・客観的な思考法を育てる心の準備をしてください。また、 <u>外国書研究のシラバス</u> も確認してください。 研究分野：実証政治学（現代政治：含選挙・世論、民主主義など） 募集人数：10-12名 試験方法：身上書（独自書式）、面接 関連パッケージ：a 政治理論系、b 國際政治系、c 社会学系 関連科目： 政治過程論、計量政治学、政治行動論、メディアと世論、現代社会心理学		

専門演習（卒業論文）	2単位	
	3年	秋学期
加藤 言人		
<b>担当科目：</b> 政治過程論（春学期、半期集中） 計量政治学（秋学期、英語）		
<b>ゼミナールの研究テーマ：</b> 研究テーマとしては、一般有権者の政治行動・政治意識形成のプロセス、および一般有権者と政治家・政府・メディアとの関係を中心に、現代政治全般に関心がある人を歓迎します。地域的な関心は、日本やアメリカを始め、世界中どここの国でも構いません。ただし、卒業論文では、科学的な問い合わせ理論を明示した上で、仮説検証型の計量データ分析をしてもらいますので、実質的には量的データが入手可能な研究テーマに取り組むことになります（さらに質的な検証・検討を加えることはもちろん構いません）。		
<b>1. 授業の概要・到達目標</b> 秋学期のサーベイ実験研究レプリケーションのグループプロジェクトは、実験デザインの詳細を詰めたうえで、分析計画を策定し、実際に実験を実施して分析します。また、統計ソフトRについては、さらに応用的な分析手法および分析結果の解釈方法を学び、卒業論文にも活用できるようなスキルの取得を目指します。		
<b>2. 授業内容</b> 第1回目 研究倫理審査の意義と実践 第2回目 実験デザインのテストと改善① 第3回目 実験デザインのテストと改善② 第4回目 Rによる応用分析（ロジット） 第5回目 Rによる仮説検証と結果の解釈 第6回目 事前研究計画の意義と実践 第7回目 グループディスカッション（研究倫理と研究の再現性について） 第8回目 実験デザインの決定と実験の実施 第9回目 Rによる分析結果の可視化① 第10回目 Rによる分析結果の可視化② 第11回目 分析結果グループプレゼンテーション③ 第12回目 分析結果グループプレゼンテーション④ 第13回目 卒論構想プレゼンテーション① 第14回目 卒論構想プレゼンテーション② ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
<b>3. 履修上の注意</b> グループ・プロジェクトとは別に、卒業論文の執筆に向けて、Rによるデータ分析の方法論理解を深め、さらに分析練習をしたい（+英語による講義受講の経験を積みたい）人は、本ゼミ教員による計量政治学（英語）の同時受講をおすすめします。		
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b> グループは、できるだけ関心の近い人で構成しますが、緊密に連携をとり、負担が偏らないようにすること。また、発表直前だけでなく、恒常的に集まって作業に取り組むことが望ましいです。		
<b>5. 教科書</b> リーディングについては講義中に必要に応じて提示します。		
<b>6. 参考書</b> ※政治学方法論の学習に役立つ本： Bailey, Michal A. 2021. <i>Real Stats: Using Econometrics for Political Science and Public Policy</i> . 2nd ed. Oxford Univ. Pr. Imai, Kosuke. 2017. <i>Quantitative Social Science: An Introduction</i> . Princeton Univ. Pr. (今井耕介. 2018. 社会科学のためのデータ分析入門(上)(下). 細谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳. 岩波書店.) Kellstedt, Paul M., and Guy D. Whitten. 2013. <i>The Fundamentals of Political Science Research</i> . 2nd ed. Cambridge Univ. Pr.		
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b> 授業中のフィードバックに加えて、授業時間外でも、Discordを用いて、教員・学生間で双方向的なコミュニケーションを行います。		
<b>8. 成績評価の方法</b> 研究発表（30%）、ディスカッションの貢献度（20%）、グループワークのクオリティ（50%）を総合的に評価します。		
<b>9. その他</b>		

<b>専門演習（卒業論文）</b>	2単位	
	4年	春学期
加藤 言人		
<b>担当科目：</b> 政治過程論（春学期、半期集中） 計量政治学（秋学期、英語）		
<b>ゼミナールの研究テーマ：</b>		
研究テーマとしては、一般有権者の政治行動・政治意識形成のプロセス、および一般有権者と政治家・政府・メディアとの関係を中心に、現代政治全般に関心がある人を歓迎します。地域的な関心は、日本やアメリカを始め、世界中どこの国でも構いません。ただし、卒業論文では、科学的な問い合わせ理論を明示した上で、仮説検証型の計量データ分析をしてもらいますので、実質的には量的データが入手可能な研究テーマに取り組むことになります（さらに質的な検証・検討を加えることはもちろん構いません）。		
<b>1. 授業の概要・到達目標</b>		
4年次のゼミでは、各自の関心に応じてテーマを設定し、量的データの実証分析を用いた研究を卒業論文にまとめます。基本的には、仮説検証型の論文を書いてもらいます。ゼミ内では、進捗を発表し、内容についてコメント・討論を行います。また、必要に応じて、Rによる応用的なデータ分析に関する演習を導入します。		
<b>2. 授業内容</b>		
第 1 回目 政治データ分析演習1 第 2 回目 進捗発表および討論1回目① 第 3 回目 進捗発表および討論1回目② 第 4 回目 進捗発表および討論1回目③ 第 5 回目 進捗発表および討論1回目④ 第 6 回目 進捗発表および討論1回目⑤ 第 7 回目 進捗発表および討論1回目⑥ 第 8 回目 政治データ分析演習2 第 9 回目 進捗発表および討論2回目① 第 10 回目 進捗発表および討論2回目② 第 11 回目 進捗発表および討論2回目③ 第 12 回目 進捗発表および討論2回目④ 第 13 回目 進捗発表および討論2回目⑤ 第 14 回目 進捗発表および討論2回目⑥		
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
<b>3. 履修上の注意</b>		
3年次のゼミで培った研究デザインに関する知識・経験を思い出して活用すること。		
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b>		
発表直前だけでなく、恒常に作業に取り組むことが望ましいです。また、分析などで分からぬことがあります。授業まで待たずに積極的に教員に質問してください。		
<b>5. 教科書</b>		
リーディングについては講義中に必要に応じて提示します。		
<b>6. 参考書</b>		
個々の研究プロジェクトに関する参考文献については、必要に応じて紹介します。		
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b>		
授業中のフィードバックに加えて、授業時間外でも、Discordを用いて、教員・学生間で双方向的なコミュニケーションを行います。		
<b>8. 成績評価の方法</b>		
研究発表の準備度（30%）、討論への貢献度（20%）、卒業論文内容のクオリティ（50%）を総合的に評価します。		
<b>9. その他</b>		

<b>専門演習（卒業論文）</b>	2単位	
	4年	秋学期
加藤 言人		
<b>担当科目：</b> 政治過程論（春学期、半期集中） 計量政治学（秋学期、英語）		
<b>ゼミナールの研究テーマ：</b>		
研究テーマとしては、一般有権者の政治行動・政治意識形成のプロセス、および一般有権者と政治家・政府・メディアとの関係を中心に、現代政治全般に関心がある人を歓迎します。地域的な関心は、日本やアメリカを始め、世界中どこの国でも構いません。ただし、卒業論文では、科学的な問い合わせ理论を明示した上で、仮説検証型の計量データ分析をしてもらいますので、実質的には量的データが入手可能な研究テーマに取り組むことになります（さらに質的な検証・検討を加えることはもちろん構いません）。		
<b>1. 授業の概要・到達目標</b>		
4年次のゼミでは、各自の関心に応じてテーマを設定し、量的データの実証分析を用いた研究を卒業論文にまとめます。基本的には、仮説検証型の論文を書いてもらいます。ゼミ内では、進捗を発表し、内容についてコメント・討論を行います。秋学期には、必要に応じて、Rによる応用的なデータ分析に関する演習を導入し、ゼミ担当教員による最新研究についての紹介も加えます。		
<b>2. 授業内容</b>		
第 1 回目 政治データ応用分析演習3 第 2 回目 進捗発表および討論3回目① 第 3 回目 進捗発表および討論3回目② 第 4 回目 進捗発表および討論3回目③ 第 5 回目 進捗発表および討論3回目④ 第 6 回目 進捗発表および討論3回目⑤ 第 7 回目 進捗発表および討論3回目⑥ 第 8 回目 政治データ応用分析演習4 第 9 回目 政治データ応用分析演習5 第 10 回目 最新研究の紹介および討論① 第 11 回目 進捗最終発表および討論① 第 12 回目 進捗最終発表および討論② 第 13 回目 進捗最終発表および討論③ 第 14 回目 最新研究の紹介および討論②		
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。		
<b>3. 履修上の注意</b>		
3年次のゼミで培った研究デザインに関する知識・経験を思い出して活用すること。		
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b>		
発表直前だけでなく、恒常に作業に取り組むことが望ましいです。また、分析などで分からぬことがあります。授業まで待たずに積極的に教員に質問してください。		
<b>5. 教科書</b>		
リーディングについては講義中に必要に応じて提示します。		
<b>6. 参考書</b>		
個々の研究プロジェクトに関する参考文献については、必要に応じて紹介します。		
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b>		
授業中のフィードバックに加えて、授業時間外でも、Discordを用いて、教員・学生間で双方向的なコミュニケーションを行います。		
<b>8. 成績評価の方法</b>		
研究発表の準備度（30%）、討論への貢献度（20%）、卒業論文内容のクオリティ（50%）を総合的に評価します。		
<b>9. その他</b>		

<b>専門演習 (外国書研究・原典研究) I</b>	2 単位																												
3年	春学期																												
加藤 言人																													
<b>1. 授業の概要・到達目標</b>																													
<p>主には、実証政治学研究のリサーチ・デザイン（特に実験研究）を巡るトピックに関する英語論文や英文教科書の章を講読します。</p> <p>各文献の担当者を決めて英文レジュメを準備してもらい、内容を紹介してもらいます。加えて、同じ担当者の司会でディスカッションをして、実践的な理解を深めます。</p>																													
<b>2. 授業内容</b>																													
<table border="0"> <tr><td>第 1 回目</td><td>イントロダクション（課題の概要説明）</td></tr> <tr><td>第 2 回目</td><td>因果関係 1</td></tr> <tr><td>第 3 回目</td><td>因果関係 2</td></tr> <tr><td>第 4 回目</td><td>リサーチ・デザイン</td></tr> <tr><td>第 5 回目</td><td>研究・論文の構成</td></tr> <tr><td>第 6 回目</td><td>政治学実験応用研究 1</td></tr> <tr><td>第 7 回目</td><td>政治学実験応用研究 2</td></tr> <tr><td>第 8 回目</td><td>政治学実験応用研究 3</td></tr> <tr><td>第 9 回目</td><td>政治学実験応用研究 4</td></tr> <tr><td>第 10 回目</td><td>政治学実験応用研究 5</td></tr> <tr><td>第 11 回目</td><td>データと測定指標</td></tr> <tr><td>第 12 回目</td><td>実験の種類とデザイン</td></tr> <tr><td>第 13 回目</td><td>調査サンプルの性質</td></tr> <tr><td>第 14 回目</td><td>実験デザインの応用的側面</td></tr> </table>		第 1 回目	イントロダクション（課題の概要説明）	第 2 回目	因果関係 1	第 3 回目	因果関係 2	第 4 回目	リサーチ・デザイン	第 5 回目	研究・論文の構成	第 6 回目	政治学実験応用研究 1	第 7 回目	政治学実験応用研究 2	第 8 回目	政治学実験応用研究 3	第 9 回目	政治学実験応用研究 4	第 10 回目	政治学実験応用研究 5	第 11 回目	データと測定指標	第 12 回目	実験の種類とデザイン	第 13 回目	調査サンプルの性質	第 14 回目	実験デザインの応用的側面
第 1 回目	イントロダクション（課題の概要説明）																												
第 2 回目	因果関係 1																												
第 3 回目	因果関係 2																												
第 4 回目	リサーチ・デザイン																												
第 5 回目	研究・論文の構成																												
第 6 回目	政治学実験応用研究 1																												
第 7 回目	政治学実験応用研究 2																												
第 8 回目	政治学実験応用研究 3																												
第 9 回目	政治学実験応用研究 4																												
第 10 回目	政治学実験応用研究 5																												
第 11 回目	データと測定指標																												
第 12 回目	実験の種類とデザイン																												
第 13 回目	調査サンプルの性質																												
第 14 回目	実験デザインの応用的側面																												
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。																													
<b>3. 履修上の注意</b>																													
<p>英語について：現代政治分野の実証・科学的研究は、欧米圏で多くの成果があります。本ゼミナールでは短い新聞記事ではなく、学術論文・学術書をメインに英語文献を読むことを覚悟してください。英語の授業ではないので、1字1句の精読は求めませんし、勧めません。複雑な英語論文の要点をどう効果的につかみ、その論点について自分の理解が深められるか、という点に注力してください。年に数回、英語での特別講義を実施することも想定しており、学生の意欲がある場合、留学生がいる場合は、英語でディスカッションを行う可能性もあります。また、欧米圏における知見を、日本を含む非欧米圏のコンテクストにどう適用・応用していくかについて考えるモチベーションがある学生を歓迎します。</p>																													
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b>																													
<p>文献の読み方：文献や知識を、情報としてただ受け入れるのではなく、それらを使って考え、ディスカッションに積極的に参加することを求めます。文献を読んだら、少なくとも 2-3 つは疑問やコメントを準備してきてください。ゼミ中に黙って発言しない場合は、読んでいないのと同じと見なします。誤解や論点のズレがあっても、むしろそれらは理解を深めるきっかけになるものですから、間違いを恐れず発言してください（理解間違い程度で減点はしません）。</p>																													
<b>5. 教科書</b>																													
リーディングについては講義中に必要に応じて提示します。																													
<b>6. 参考書</b>																													
参考リーディングについては講義中に必要に応じて提示します。																													
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b>																													
授業中のフィードバックに加えて、授業時間外でも、Discord を用いて、教員・学生間で双方向的なコミュニケーションを行います。																													
<b>8. 成績評価の方法</b>																													
文献担当時のレジュメおよび解説の準備度（40%）、討論への貢献度（50%）、その他の授業参加度（10%）を総合的に評価します。																													
<b>9. その他</b>																													

<b>専門演習 (外国書研究・原典研究) II</b>	2 単位																												
3年	秋学期																												
加藤 言人																													
<b>1. 授業の概要・到達目標</b>																													
<p>主には、実証政治学研究（特に世論研究と実験研究）に関する応用的な英語論文および英文学術書のチャプターを購読します。受講者の関心に応じ、投票行動、政治参加、世論、政治コミュニケーション・メディア、政治心理、政治と社会的アイデンティティ・ジェンダー、政治家行動、選挙・政治制度などの分野に関する応用研究を含めます。</p>																													
<b>2. 授業内容</b>																													
<table border="0"> <tr><td>第 1 回目</td><td>イントロダクション（前学期の復習）</td></tr> <tr><td>第 2 回目</td><td>世論の理論 1</td></tr> <tr><td>第 3 回目</td><td>世論の理論 2</td></tr> <tr><td>第 4 回目</td><td>メディア効果 1</td></tr> <tr><td>第 5 回目</td><td>実験と研究倫理 1</td></tr> <tr><td>第 6 回目</td><td>実験と研究倫理 2</td></tr> <tr><td>第 7 回目</td><td>政治学実験応用研究 1</td></tr> <tr><td>第 8 回目</td><td>政治学実験応用研究 2</td></tr> <tr><td>第 9 回目</td><td>政治学実験応用研究 3</td></tr> <tr><td>第 10 回目</td><td>政治学実験応用研究 4</td></tr> <tr><td>第 11 回目</td><td>政治学実験応用研究 5</td></tr> <tr><td>第 12 回目</td><td>政治学世論応用研究 1</td></tr> <tr><td>第 13 回目</td><td>政治学世論応用研究 2</td></tr> <tr><td>第 14 回目</td><td>政治学世論応用研究 3</td></tr> </table>		第 1 回目	イントロダクション（前学期の復習）	第 2 回目	世論の理論 1	第 3 回目	世論の理論 2	第 4 回目	メディア効果 1	第 5 回目	実験と研究倫理 1	第 6 回目	実験と研究倫理 2	第 7 回目	政治学実験応用研究 1	第 8 回目	政治学実験応用研究 2	第 9 回目	政治学実験応用研究 3	第 10 回目	政治学実験応用研究 4	第 11 回目	政治学実験応用研究 5	第 12 回目	政治学世論応用研究 1	第 13 回目	政治学世論応用研究 2	第 14 回目	政治学世論応用研究 3
第 1 回目	イントロダクション（前学期の復習）																												
第 2 回目	世論の理論 1																												
第 3 回目	世論の理論 2																												
第 4 回目	メディア効果 1																												
第 5 回目	実験と研究倫理 1																												
第 6 回目	実験と研究倫理 2																												
第 7 回目	政治学実験応用研究 1																												
第 8 回目	政治学実験応用研究 2																												
第 9 回目	政治学実験応用研究 3																												
第 10 回目	政治学実験応用研究 4																												
第 11 回目	政治学実験応用研究 5																												
第 12 回目	政治学世論応用研究 1																												
第 13 回目	政治学世論応用研究 2																												
第 14 回目	政治学世論応用研究 3																												
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。																													
<b>3. 履修上の注意</b>																													
<p>英語について：現代政治分野の実証・科学的研究は、欧米圏で多くの成果があります。本ゼミナールでは短い新聞記事ではなく、学術論文・学術書をメインに英語文献を読むことを覚悟してください。英語の授業ではないので、1字1句の精読は求めませんし、勧めません。複雑な英語論文の要点をどう効果的につかみ、その論点について自分の理解が深められるか、という点に注力してください。年に数回、英語での特別講義を実施することも想定しており、学生の意欲がある場合、留学生がいる場合は、英語でディスカッションを行う可能性もあります。また、欧米圏における知見を、日本を含む非欧米圏のコンテクストにどう適用・応用していくかについて考えるモチベーションがある学生を歓迎します。</p>																													
<b>4. 準備学習（予習・復習等）の内容</b>																													
<p>文献の読み方：文献や知識を、情報としてただ受け入れるのではなく、それらを使って考え、ディスカッションに積極的に参加することを求めます。文献を読んだら、少なくとも 2-3 つは疑問やコメントを準備してきてください。ゼミ中に黙って発言しない場合は、読んでいないのと同じと見なします。誤解や論点のズレがあっても、むしろそれらは理解を深めるきっかけになるものですから、間違いを恐れず発言してください（理解間違い程度で減点はしません）。</p>																													
<b>5. 教科書</b>																													
リーディングについては講義中に必要に応じて提示します。																													
<b>6. 参考書</b>																													
参考リーディングについては講義中に必要に応じて提示します。																													
<b>7. 課題に対するフィードバックの方法</b>																													
授業中のフィードバックに加えて、授業時間外でも、Discord を用いて、教員・学生間で双方向的なコミュニケーションを行います。																													
<b>8. 成績評価の方法</b>																													
文献担当時のレジュメおよび解説の準備度（40%）、討論への貢献度（50%）、その他の授業参加度（10%）を総合的に評価します。																													
<b>9. その他</b>																													